

輸出事業計画

※申請者名：株式会社田代食品、品目：大豆加工製品

1. 輸出における現状と課題

【輸出における現状】

輸出の取組みについては、2024年10月から開始し、現在、大豆加工製品を主品目として、台湾へ展開しています。

輸出品目は、大豆加工製品で商品名「TofuBody」です。TofuBodyとは、豆腐を主成分としたパウチ飲料です。USP（売り・強み）として、1パックあたり20gのたんぱく質を摂取できるという点が挙げられます。甘さは控えめのため、健康美容意識の高い台湾の方々のニーズにマッチする強みであります。また、豆腐のヒビ割れや型崩れによって生じていた豆腐の規格外製品から産まれたフードロス対策として開発されたアップサイクル製品としてのストーリーがSDGs志向の高い台湾では評価されるという点も挙げられます。さらに、常温で長期保存が可能という点においても、商社の輸送管理、及び小売店での保管が容易であることで喜んでいただけるとともに、消費者においても万が一に備えた備蓄商品として使えるという点も価値に感じてもらえます。

【輸出における課題】

【流通】面の課題：物流を滞りなく行うため、国内外の各段階での物流ネットワークの連携強化が必要

【販売】面の課題：① 販路獲得のための市場調査の必要性、② 製品規格の対応状況を確認が必要、③ 台湾での販売活動、④ 販売促進ツールの準備

【製造】面の課題：① 輸出量の増加に対応できるように、製造室の新設工事が必要、② TofuBodyの増産に対応するための充填包装設備の導入が必要、③ 現地に対応したパッケージ制作が必要

2. 輸出事業計画の取組内容

【流通】面の取組み：物流については、各役割ごとに担当を配置します。

【販売】面の取組み

- ① 食を専門とする現地インフルエンサーに当社製品を取り上げてもらいます。
- ② 現在の成分で台湾国内の規制に対応できていない点を調査しています。
- ③ 台湾で、様々な企業プロモーションを手掛けている喜來登印刷設計と業務委託契約を締結し、現地でクレームが発生した場合の対応、商談の現地立ち合い、マネキン販売の実演、通訳翻訳のサポートを行ってもらいます。
- ④ TofuBodyに関するリーフレット（英語・台湾中国語対応）の作成を行います。これをマネキン販売時の設置リーフレット及び商談資料として使用します。

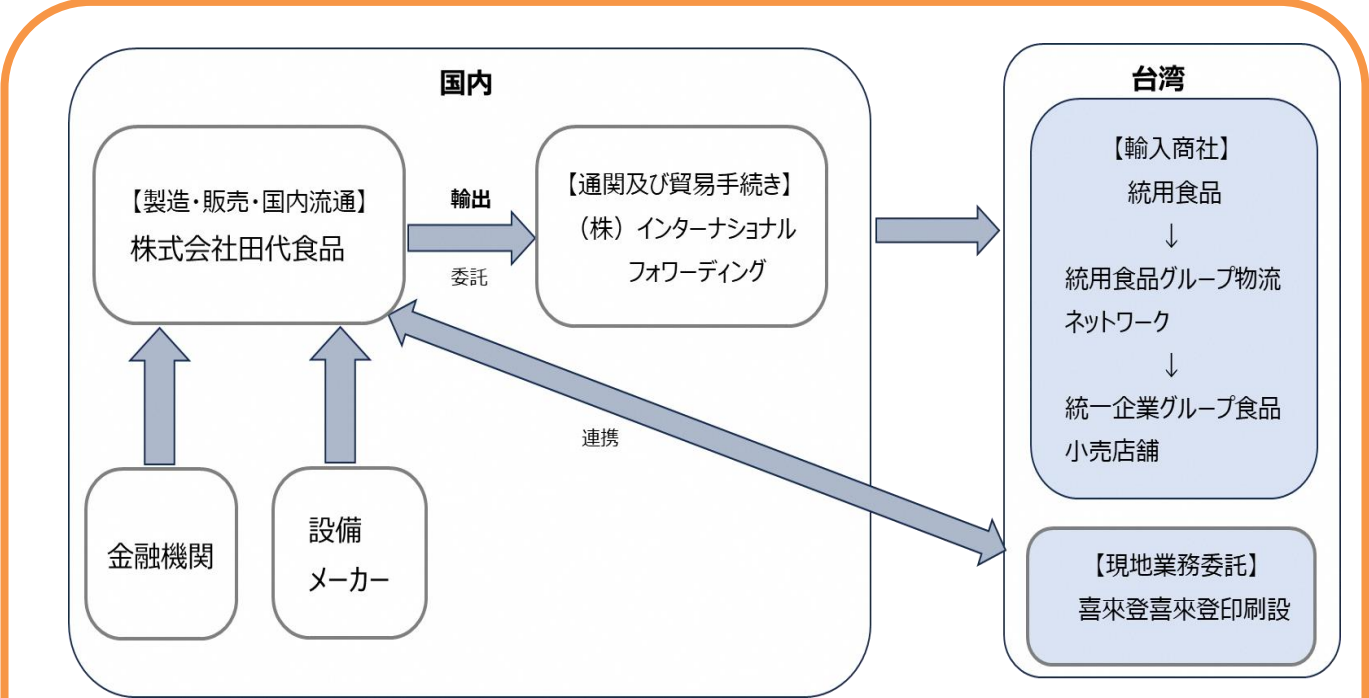
【製造】面の取組み

- ① 惣菜製造室の新設工事を行うことで、輸出量の増加に対応します。
- ② TofuBodyについては、現在、手作業でキャップ締めと充填作業を行っており、1日の製造可能限度数が2,000pとなっています。自動充填機（MS-C L-S P型スパウト袋充填キャッパー）の導入することで、これを10,000p／日にまで引き上げることが可能です。そうすることで、1p当たりの物流コストも大きく抑えることができるとともに、生産性も向上するため、収益を安定して確保することが可能となります。
- ③ 現地の成分仕様に対応したパッケージを新規に制作します。

輸出事業計画

※申請者名：株式会社田代食品、品目：大豆加工製品

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



【輸出事業計画の実証と見直しを行うための PDCA 実施体制】

- P： 現地パートナー商社等からの現地情報・規制情報に基づき、輸出事業計画や設備投資計画を検討する。
- D： 計画に基づき、現地での活動も含めた販売促進活動を強化し、輸出を拡大する。
- C： 輸出の進捗状況について、輸出商社、金融機関、自社で把握した販売状況等の評価・課題・アドバイスを踏まえ、必要に応じて計画を見直す。
- A： 上記のフィードバック等を通じて現地消費者の求める商品製造・改善や販路拡大に繋げる。

4. 輸出目標額

(輸出品目：TofuBody)

		現状（2023年） （2023年 1 月～2023年12月）	目標年（2026年） （2026年 1 月～2026年12月）
台湾	輸出額(千円)	0	63,000
	輸出量（kg）	0	13,320
	輸出先国	なし	台湾
	生産量（kg）	0	13,320